



広島県立府中東高校での

アントレプレナーシップ教育の講義

令和7年5月2日(金)、9日(金)、16日(金)、30日(金)、6月6日(金)の計5回にわたり、広島県立府中東高等学校インテリア科3年生を対象に「アントレプレナーシップ教育」の連続講義を実施しました。本取組は、同校が総合的な探究の時間を活用して展開する「実社会につながる学び」の一環であり、生徒が地域資源や既存技術を生かして創造的に価値を生み出す力を育成することを目的としています。

これまで同校では、廃材や木材チップを用いた製品開発、地元企業と連携した商品制作など「モノづくり」に重点を置いた教育を実践してきました。今回のプログラムでは一歩進めて、「モノやサービスが売れるための仕組み」を理解し、考え、伝え、届ける力を養うことをねらいとしました。講師は県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)の江戸克栄教授、地域基盤研究機構の川畑哲郎准教授、同島川龍載特命准教授の3名が務めました。

第1回は江戸教授が登壇し、マーケティングの定義やニーズ・ウォンツなどの基礎を、事例を交えて解説しました。生徒は「売れる仕組み」を学ぶことで、社会を見る新たな視点を得ました。



第2回は川畑准教授による知的財産の講義で、特許や商標、著作権の違いを学び、自らのアイデアが守られるべき価値であることを理解しました。



第3回では江戸教授による市場環境分析やターゲティングを学習し、文化祭の商品企画を誰にどう届けるかを考える演習を実施。第4回は江戸教授によるマーケティング・ミックス(4P)を軸に付加価値や価格戦略を検討し、販売計画に必要な実践的知識を深めました。

最終回は島川特命准教授がシステムデザイン思考をテーマに、社会や人につながる仕組みを可視化。エコバッグを題材に、制度や行動が「売れる仕組み」とどう関わるかを分析し、モノづくりを超えて社会を動かす視点を学びました。



5回の講義を通じて、生徒たちは知識を積み重ねながら「実践的な企画力」を養い、実社会につながる学びを体感しました。本取組は、若い世代が地域や社会に新しい価値を生み出す力を育む貴重な機会となりました。

広島県瀬戸内高校での

アントレプレナーシップ教育の講義

2025年5月28日(水)、広島県瀬戸内高校において、探究型学習の一環として「アントレプレナーシップ教育」の講義を実施しました。当日は瀬戸内高校3年生25名に加え、広島桜が丘高校3年生7名も参加し、計32名が受講しました。講義では、県立広島大学から足立洋教授(地域産業コース)、鍛島秀明准教授(健康科学コース)、中村嘉雄准教授(経営管理研究科)、岡村和典講師(理学療法学コース)の4名が、それぞれの専門的な視点からビジネスアイデアのシーズとなる話題提供を行いました。また、地域基盤研究機構の川畑哲郎准教授が「課題発見の第一歩」をテーマに基礎セミナーを実施しました。

講義内容は多岐にわたり、川畑准教授はアントレ教育を踏まえた課題発見の重要性を提示しました。鍛島准教授は運動・栄養といった健康科学を社会やビジネスに結びつける視点を紹介しました。足立教授は「アトツギ問題」をテーマに地域産業の継承課題を、生徒にとって身近な視点で語りました。岡村講師はスポーツ活動中のケガ予防の現状と課題を取り上げ、中村准教授は広島県の地場産業の課題を提供しました。生徒たちは配布資料を確認し、熱心にメモを取りながら真剣に講義に臨み、今後の課題設定に向けた大きな刺激を得ました。



この学びを踏まえ、7月25日(金)と8月1日(金)には、本学において両校の3年生を対象とした「ビジネスプラン・ワークショップ」が実施されました。生徒は自ら社会課題を見出し、その解決

策としてのビジネスプランを考える活動に取り組みました。第1回(7月25日)では7グループに分かれ、各自が準備してきたプランを担当教員に説明しました。その過程で課題解決に必要な要素や不足点を明らかにし、教員からの助言をもとにブラッシュアップの方向性を検討しました。



続く第2回(8月1日)では、改善を加えたビジネスプランをグループごとに発表しました。地域資源の活用や健康課題への取り組みなど、多様な社会課題に応える斬新なアイデアが提案されました。発表後には教員との質疑応答やフィードバックが行われ、生徒たちはさらなる改善点を持ち帰りました。

今回の一連の取組を通じて、生徒たちは「課題を



見つけ、考え、伝え、形にする力」を実践的に学ぶことができました。

生徒たちは、作成したビジネスプランについて、アドバイスを基にさらに改善していくことで、ビジネスプランコンテストの応募を目指しています。

県立広島大学×広島市立大学 連携公開講座

「ひろしまを考える」の開催

県立広島大学と広島市立大学は、連携公開講座「ひろしまを考える」を開催し、起業をテーマとした全2回の講座が実施されました。本講座は、学生や社会人がアントレプレナーシップを学び、自らのキャリアや地域との関わりを見つめ直す機会として企画されました。両回とも、島川龍載特命准教授がコーディネーターを務め、第1回は27名、第2回は33名が参加しました。

第1回（7月15日(火)）には、県立広島大学卒業生で株式会社ナッカサン代表取締役の仲正人氏が登壇されました。仲氏は病気や家庭の事情を経て起業に至った経験を紹介され、起業は「自分らしい働き方や生き方を実現する選択肢」であると強調されました。また、中小企業支援や産学連携、女性起業家支援など幅広い実績についても触れられ、挑戦する姿勢の重要性が示されました。

第2回（7月22日(火)）には、広島市立大学大学院在学中で「下村木工デザイン」代表の下村祐介氏が登壇されました。下村氏は、宮島の伝統工芸「宮島ロクロ」との出会いから活動を始め、作品制作や後継者育成、地域文化の発信に取り組まれている事例を紹介されました。ものづくりを通じて伝統を継承し、新しい価値を創出する姿勢が語られました。

両回を通じて、起業は特別な人だけのものではなく、身近な課題や自身の思いを出発点に誰もが挑戦できるものであることが示されました。受講者にとって、地域で活躍する起業家の体験談は、進路や生き方を考える上で大きな刺激となる内容となりました。



公開講座

「日本文化における視覚化・映像化」の開催

7月17日(木)、24日(木)、25日(金)に広島県立文書館にて、「日本文化における視覚化・映像化」を開講しました。17日及び24日に地域創生学部地域創生学科地域文化コースの目黒将史准教授が「チャンバラの原点—〈技〉の文化史—」(17日)、「『平成狸合戦ぽんぽこ』から文化継承を紐解く」(24日)を、25日には地域創生学部地域創生学科地域文化コースの福田涼講師が「『物語』が生まれるとき—『かぐや姫の物語』を「読む」—」をテーマに講座を行いました。受講者は、第1回24名、第2回26名、第3回28名、延べ78名の幅広い年代の方々にご参加いただきました。



第1回では、現代の活劇や漫画につながる〈技〉の文化史を、「平家物語」や室町時代の物語草子を通じてたどりましました。第2回では、高畑功監督のアニメーション映画「平成狸合戦ぽんぽこ」に見られる古典工芸・絵画の再現場面を、文化継承の観点から紐解きました。第3回では、同じく高畑勲監督によるアニメーション映画「かぐや姫の物語」を、アニメーションや物語に対する「メタ批評」として読み解きました。

ご参加いただいた方からは、「知っている作品を違う視点で見ることによって、さらにおもしろくなった」「現代にあるもので具体例を挙げていてとても面白く楽しく聞く事ができました」などのお声をいただきました。

三次市×三次商工会議所×県立広島大学

令和7年度三次イノベーション会議総会の開催

5月22日(木)、三次市役所において「三次イノベーション会議」総会が開催されました。本会議は、産学官の連携を通じて地域課題の解決と地域活性化を図ることを目的とし、関係者が一堂に会しました。開会にあたり、本会会長の福岡三次市長は「大学の持つ知見を地域に活かし、産学官が一体となって課題解決に取り組むことの重要性」を強調しました。続いて本会副会長の森永学長からは「三次市と大学との連携が一層深まっている」との挨拶がありました。

議事では、令和6年度事業報告および決算報告が承認され、令和7年度の事業計画と収支予算案も可決されました。質疑では、委託料や連携推進費の増減について説明がなされ、昨年度は講演会事業や調査研究の補助金採択に伴う計上であることが報告されました。続いて、地域基盤研究機構の荻田信二郎機構長より「地域活性化に関する大学の取組2025」が紹介されました。庄原・三原・広島の各キャンパスが地域課題に応じた研究を進めており、とりわけ自治体との包括協定に基づく新たな事業の提案や、研究と事業者ニーズのマッチングの推進が強調されました。また、広島大学を中心に展開される「Peace & Science Innovation (PSI)」への参画についても触れ、次世代人材育成や地域経済の活性化に資する姿勢が示されました。



閉会にあたり、三次商工会議所の加藤副会頭は「地域の事業者ニーズと大学研究の結び付けが鍵である」と述べ、今年度のワーキンググループを通じた具体的なマッチングへの期待を表明しました。

本総会は、地域と大学の知を結集し、新たなイノベーションを創出するための重要な一歩となりました。

広島県立美術館×県立広島大学

令和7年度ミュージアムツアー

広島キャンパスでは例年、キャンパスメンバーズ制度の一環として、県内の美術館・博物館を学生・教職員が訪問し、展示を実際に見学する「ミュージアムツアー」を実施しています。

今年度は、9月6日(土)に広島市中区にある“広島県立美術館”を訪問し、所蔵作品展「第2期 サマーミュージアム 戦後80年 戦争と美術、美術と平和」を鑑賞しました。当美術館の学芸員に展示物の解説をおこなっていただき、戦争が芸術に与えた影響や作品に込められた作者の思い、展示の意図など、学芸員だからこそ知る見どころを教えてくださいました。戦前・戦中・戦後と時代を追うように展示された作品からは、日常が戦争に侵食される恐怖や、戦争の絶望から戦後復興を遂げていく人々の強さが感じられました。



また、同時開催していた特別展「ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界」も併せて鑑賞しました。藤枝氏がこれまでに手がけた絵本やポスター、テレビ番組でおなじみのキャラクターなどが展示され、参加した学生が「懐かしい」と楽しそうに鑑賞されている姿が印象的でした。

ツアーに参加した学生からは「とても貴重なお話を聞けて良かったです。また参加したいです」「解説があったことにより、1人でみるよりもわかりやすく勉強にもなりました」といった声が寄せられました。

今後の開催予定のイベント

ひろしま創業サポートセンター×叡啓大学× 県立広島大学

「大塚あみさんトークライブ」開催案内

10月23日(木)に、叡啓大学15階「Eikei Top」(広島市中区鞆町1-5)にて、特別セミナー「やってみたら、問いが生まれた。問い続けてチャレンジしたら人生が変わった 大塚あみさんトークライブ」を開催します。講師は合同会社 Hundreds 代表でベストセラー著者の大塚あみ氏。第1部では著書『#100日チャレンジ 毎日連続100本アプリを作ったら人生が変わった』で描ききれなかった“行動の内側にある問い”を掘り下げ、第2部では学生とのトークセッションと質疑を通じて、挑戦のリアルを共有します。時間は18:30～20:30。定員は対面30名/オンライン100名(いずれも先着順)、参加費は無料です。起業や新たなチャレンジに関心のある方は、ぜひお申し込みください。

【お申し込みはこちらから】

電話：082-240-7702

(ひろしま創業サポートセンター内)

右のQRコードからもお申し込み可能です→



【お申し込みはこちらから】

メール：kouza@pu-hiroshima.ac.jp

電話：082-251-9534

右のQRコードからもお申し込み可能です→



公開講座

「三島由紀夫の「本棚」-翻訳文学を中心に-」開催案内

11月28日(金)、12月5日(金)に、宇品公民館(広島市南区宇品御幸四丁目1-2)にて公開講座「三島由紀夫の「本棚」-翻訳文学を中心に-」を開催します。第1回は『『仮面の告白』の成立基盤』、第2回は「『姦通小説』としての『春の雪』」をテーマに、地域創生学部地域創生学科地域文化コースの福田涼講師が解説をおこないます。三島由紀夫の「本棚」を覗くように、彼の作品に影響を与えた書物を参照しながら、作品について詳細に解説します。

定員は25名です。(先着順)どなたでも無料でご参加いただけます。ご関心のある方は、どうぞお早めにお申し込みください。

【お申し込みはこちらから】

メール：kouza@pu-hiroshima.ac.jp

電話：082-251-9534

右のQRコードからもお申し込み可能です→



公開講座

「読み切り文学講座」開催案内

10月17日(金)、24日(金)に、南区図書館(広島市南区比治山本町16-27)にて公開講座「読み切り文学講座」を開講します。

第1回は地域創生学部地域創生学科地域文化コースの栗原武士准教授が「ノーマン・マククリーン『マククリーンの川』を読む」、第2回は同じく地域創生学部地域創生学科地域文化コースの福田涼講師が「三島由紀夫『潮騒』を「読む」-「小説」の奥行-」をテーマに講座を展開します。名作小説を先生方の解説により、より深く味わうことができる貴重な機会です。定員は40名です。(先着順)どなたでも無料でご参加いただけますので、ご興味のある方はぜひお申し込みください。

広島県内大学・高等専門学校の学生が発表！！

第4回広島県学生地域連携活動発表会

11月29日(土)、県立広島大学広島キャンパス大講義室(広島市南区宇品東1-1-71)にて、「第4回広島県学生地域連携活動発表会」を開催します。

本発表会は、県内の大学や高等専門学校に所属する学生が主体的に取り組んでいる地域貢献活動を紹介し合い、相互に学び、教育効果の向上や地域連携の強化を図ることを目的としています。

プログラムでは、各校の学生による事例発表のほか、ポスターセッション、企業ブース展示も設けられます。参加費は無料で、どなたでもご参加いただけます。会場参加に加え、オンライン配信も予定しています。今後、本学ホームページ

(<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/koukai-kouza/>)で開催案内を発信します。ぜひご参加ください。

編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号
電話 (082) 251-9534/E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<https://www.puhiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>



各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地
電話 (0824) 74-1000/E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号
電話 (0848) 60-1120/E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp